

令和元年度 地方独立行政法人山梨県立病院機構 業務実績評価（概要）

機構が山梨県知事に提出した業務実績報告書に基づき、評価が行われた。その概要は次のとおりである。

< 全体評価 >

- ・総評として、令和元年度における中期計画の実施状況は優れていると評価する。

< 項目別評価（40項目） >

評 価		評価項目数		
		H 3 0	R 1	増減
特に優れている	S	1 3	1 3	0
優れている	A	1 7	2 1	4
順調である	B	1 0	6	△ 4
劣っている	C	0	0	0
著しく劣っており、大幅な改善が必要	D	0	0	0

○ 実施状況が特に優れていると評価された項目（評価S）及び評価理由

① (1) 救命救急医療

高度救命救急センターの指定を受け、より高度で専門的な救急医療を提供するとともに、センターの患者数及び手術件数が増加した。

三次救急を24時間体制で実施するとともに、三次救急患者以外の症例にも対応し、県民に安心感を与えている。

② (2) 総合周産期母子医療

全てのハイリスク妊婦を受け入れており、M F I C Uの延べ入院患者数が増加した。胎児超音波スクリーニング検査が増加した。

③ (3) がん医療

手術、化学療法及び放射線療法を効果的に組み合わせた高度な医療を実施しており、低侵襲手術支援ロボット（da Vinci Xi）を活用した手術件数や通院加療がんセンターの患者数が増加した。

東京大学医学部附属病院を中核拠点とするがんゲノム医療連携病院として、ゲノム解析に基づく先端医療を提供している。

④ (7) 精神科救急・急性期医療

県の精神科救急医療の24時間体制における中心的な存在であり、医師、看護師を始めとした多職種連携により総合的かつ一貫した医療を提供している。

スーパー救急病棟の延べ患者数が増加した中で平均在院日数が短縮した。

⑤ (8) 児童思春期精神科医療

児童思春期病棟を持つ県内唯一の病院として役割を果たしており、高度で専門的な診療により、平均在院日数が短縮するとともに、延べ外来患者数が増加した。

- ⑥ (12) 医療従事者の育成、確保及び定着
様々な分野における専門医の採用が進展し、質の高い医療を提供するのみならず、若手医師の育成に取り組んでいる。
医療従事者の業務負担軽減のため、医師事務作業補助者及び看護補助者を増員した。
- ⑦ (13) 7対1看護体制への柔軟な対応
キャリアサポートルームを設置し教育機関との連携を深めるなど、看護師確保・定着に向けた様々な取組を実施しており、全国と比べて非常に低い離職率となっている。
- ⑧ (14) 医療の標準化と最適な医療の提供
中央病院はDPC病院において特定病院群の地位を確保し、機能評価係数Ⅱのランキングで高い診療機能を有する病院として評価されており、最適な医療を提供すべく常に努力がなされている。
精神身体合併症病棟を開設し、活用している。
- ⑨ (23) 医療に関する調査及び研究
医師主導の治験を開始したほか、治験に参加経験のない産科、眼科において初めて治験を開始するなど、新薬開発等に対し積極的に貢献している。
- ⑩ (26) 地域医療機関との協力体制の強化
地域医療支援病院として、病病連携・病診連携の強化に取り組み、紹介率・逆紹介率が高水準を維持している。
地域医療の質向上を図る地域連携研修会の開催数が増加した。
- ⑪ (32) 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減
診療報酬の迅速かつ適正な算定及び請求に取り組むとともに、未収金対策を適切に実施し、年度末未収金残高が減少した。
共同購入組織を通じた購入の拡大により、診療材料分野の経費削減額が増大した。
- ⑫ (36) 予算、収支計画及び資金計画
中期計画を大幅に上回る純利益を達成しており、財務内容が適切に管理されている。
- ⑬ (37) 保健医療行政への協力
二次救急当番日数の増や初期救急患者の緊急避難的な受け入れなど、県の基幹病院としての役割を果たしている。
新型コロナウイルス感染症患者の受け入れや発熱外来の設置について、緊張を強いられる中、高い使命感のもと適切に対応した。